

# 令和6年度 自己評価実践報告書

学校名 福島県立船引高等学校

## I 自己評価の概要

### 1 『学校経営・運営ビジョンについて』

(1) 『学校経営・運営ビジョン』（別紙）

(2) 教育目標、重点努力事項等作成のねらい、意図等

「教育目標」を踏まえ、本校の現状と目標達成度、県の施策、社会情勢を検証し、学校経営の重点事項を「学力向上の推進」「豊かな人間性・社会性の育成」「キャリア教育推進と進路指導」「信頼される学校づくり」の4つとして、さらに具体的重点項目を設定している。

(3) 組織的にどのように作成したか、作成のプロセス等

ア 生徒用アンケート（令和5年度実施）

7月と12月にLHRにて説明の上実施後回収し、集計・分析

イ 保護者アンケート（令和5年度実施）

7月と1月に実施後回収し、集計・分析

ウ 学校評議員の意見聴取（令和5年度）

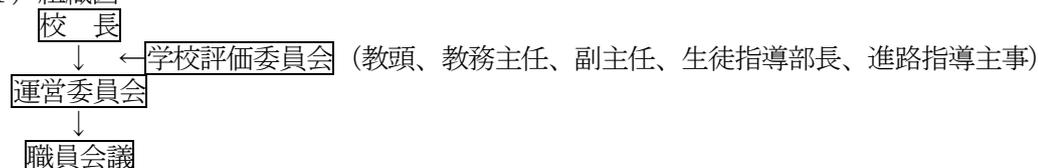
エ 学校評価委員会において、アンケートの結果を分析（令和5年度）

オ 教職員へのアンケートと各部、学年の反省（令和5年度）

カ 校長が学校の経営・運営の方針を提示し、職員会議で協議の上、決定（令和6年度）

### 2 校内組織体制について

(1) 組織図



(2) 組織作成のねらい、意図

学校が実践する教育活動全体をPDCAサイクルにより評価し、改善を図ることで本校の教育活動の質の向上を目指す。

学校の教育活動の現状、課題、成果を保護者及び地域社会に説明、公表することで、学校への理解と信頼を高めるとともに、学校・家庭・地域が一体となって教育活動を推進し、生徒の人的成長、進路実現を目指す。

### 3 自己評価年間計画について

時期	実施内容
4月上旬	・ 職員会議において当該年度の「学校経営・運営ビジョン」「スクールミッション、スクールポリシー」の確認、「学校経営・運営ビジョン」「スクールミッション、スクールポリシー」を学校Webサイトへ掲載、PTA総会において上記の説明
5月下旬	・ 第1回学校評価委員会で実施日程と内容、学校評価アンケートの内容、時期、回数、改善点について協議
6月中旬	・ 学校評議員の意見聴取
7月下旬	・ 学校評議員からの意見を職員会議で共有
9月下旬	・ 中間反省の実施
10月下旬	・ 中間反省を学校評議員と共有、アンケート内容の最終確認
11月下旬	・ 生徒・保護者への学校評価アンケート実施
12月中旬	・ 学校評価アンケート集計、分析
1月中旬	・ 学校評価アンケート分析結果を職員会議へ報告
2月中旬	・ 学校評議員の意見聴取、アンケート分析結果の共有、学校Webサイトへの掲載についての協議
2月下旬	・ 各部、学年の年度末反省、改善事項を職員会議へ報告、課題の共有

## II 評価結果の概要

### 1 実施時期、実施方法

「学校経営・運営ビジョン」の重点努力目標の項目の中で、生徒・保護者・教職員に対し共通する20項目について質問し、重点努力目標の取組に対する三者の意識を比較検討できるようにした。

評価者	前年度評価		今年度評価	
	実施時期	実施方法	実施時期	実施方法
教職員	12月下旬	教職員自己評価	12月下旬	教職員自己評価
生徒	12月1日	アンケート	11月29日	アンケート
保護者	12～1月	アンケート	11～12月	アンケート
学校評議員	2月16日	意見聴取	2月19日	意見聴取

### 2 アンケート及び回答数

評価者	前年度評価			今年度評価		
	令和5年度アンケート（12～1月実施）			令和6年度アンケート（12～1月実施）		
	対象数	回答数	割合	対象数	回答数	割合
教職員	31	31	100.0%	36	36	100.0%
生徒	243	242	99.6%	218	217	99.5%
保護者	243	215	88.5%	218	150	66.8%

### 3 評価基準について

評価	5	4	3	2	1
評価基準	業務を期待されるレベルを超え実施でき、実績を上げた。	業務を期待されるレベル以上に実施できた。	業務を適切に実施した。	業務を期待されるレベルまで実施できなかった。	業務の実施に問題がある。

### 4 年度末評価のまとめ（資料は「基礎資料」に添付し、ここでは概要のみ文章で）

#### (1) 年度末評価実施の目的、意図

生徒の現状、保護者の考え、教職員による校務の反省、意見を通してPDCAサイクルにより改善を図る。

#### (2) 年度末評価結果の概況

##### ① 学校生活について

生徒の約94%は学校生活が充実したものと感じており、前年度より充実度の評価が高く、保護者からも同様の回答が得られている。今年度の学校行事においては、地域・自治体や大学と連携した地域課題探究活動の充実、ICT機器を活用した学習等、生徒の学校生活や学習への取組に対して意欲の向上につながる働きかけの効果が出ていると判断できる。

##### ② 学習について

本校の学習支援や少人数・個別指導による授業は、「学力向上の推進」への取り組みになっていると思うかの質問に、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒は約90%であった。また、学習習慣の確立、基礎学力の定着に関する質問では、「よくあてはまる」「ややあてはまる」と回答した生徒は約85%であった。ICTを活用した課題の提示や授業展開など、『わかる授業』の実践に向けて教職員が工夫を重ねている中で、着実に基礎学力の向上が実感できている。生徒の自己肯定感をさらに高める課題の提示等、一層改善を図ってきたい。

##### ③ 進路指導について

あなたは、本校の進路実績を知っているかという質問に対して、「知っている」及び「だいたい知っている」と回答した生徒は、前回のアンケートと比べて約3%上昇した。一方で保護者の回答は、約7%低下した。加えて生徒の進路意識が高まっている中においても、進路希望が定まっていない生徒も一定数存在する。3年生が内定した企業や合格した進学先を連絡アプリ等の活用をとおして随時情報を提供することも視野に入れ、より効果的な周知のあり方について見直しを進めていきたい。

④ 生徒指導について

多様性の観点から、服装・頭髪の規則や指導のあり方について、一部の生徒や保護者から見直しを求める声が挙がっており、校則見直しに関するアンケートを実施した。生徒会で取りまとめ職員全体で共通理解を図り、生徒総会を経て、前髪の長さ・カーディガンの着用規程の見直し、アルバイトを許可制から届け出制へと改定を行った。引き続き必要な見直しを行っていく予定である。「地域から信頼され、地域に必要な学校」として生徒に自覚を促しながら、生徒・保護者・教職員の共通理解のもとで校則を見直し、生徒が納得する指導を行いたい。

⑤ 保健指導について

学校の美化活動に努め、きれいな状態を維持するように心掛けているかという質問に、「よくあてはまる」及び「ややあてはまる」と回答した生徒は93%、保護者は98%であり、肯定的な回答が非常に多い、ここ数年で感染症対策の意識が高まったことやスクールサポートスタッフの協力により日々の環境整備や感染予防の徹底が浸透している結果であると考えられる。今年度はPTAと連携して敷地内の清掃活動（落ち葉拾い）も実施できた。引き続き学校美化をおとした学習環境の整備を進めていきたい。

(3) 重点努力事項に対する達成状況

項目	年度末評価			
	実施部署	評価	実施方法	コメント
学力向上の推進	教務部	4	○学力向上と学習習慣の確立	○面談の実施や少人数指導、担任・教科担当者による細やかな指導や支援を実施することができた。 ○端末や学習アプリ（Classi）を有効に活用して課題等を実施することができた。今後は教科や教員による活用に必要以上の差が生じないように全校的な推進を図っていきたい。
		4	◇授業の充実	◇探究学習をはじめとして1人1台端末の活用が着実に推進されている。 ◇学習支援、少人数指導、個別指導に計画的に取り組み、学習内容の理解度の向上を図ることができた。
豊かな人間性・社会性の育成	生徒指導部	3	○あらゆる教育活動を通じた挨拶指導	○生徒によって一部積極的な挨拶が徹底できていない生徒がいるが、訪問される外部の方への挨拶など来校される方々からは高い評価をいただいている。
		3	◇部活動奨励と加入率の向上	◇前年度より加入率が低下した（約70%→55%）。中学校と同じ部活動を継続する生徒の割合が減少していることへの対策が求められる。
	生徒指導部 情報運用部	3	○18歳成人への対応と社会性の育成	○スマートフォン及びSNSの適切な使用を推進するため、情報Iの授業や講演をとおして情報モラル教育を行った。
生徒指導部 教育相談部	3	◇学校不適應への早期対応と個別支援の充実	◇適応推進委員会を有効に機能させ、情報を共有し、組織的な生徒指導・教育相談体制を構築できた。	
		○たむら支援学校高等部との連携	○専門家による研修会やたむら支援学校と合同研修会を行い、個別支援の事例や生徒支援の手立てを学び、理解を深めた。今後組織的に全教職員の支援スキルを高めるプロセスを構築したい。	

	図書部	4	◇たむら支援学校高等部との連携	◇たむら支援学校と連携し図書の貸し出しを円滑に行った。月間多読賞の副賞である葉は、引き続きたむら支援学校の生徒に作成していただいている。 ◇今年度はたむら支援学校の生徒も授業の一環として、調べ学習などのための図書館利用を実現することができた。
キャリア教育推進と進路指導	教務部	4	○田村市版デュアルシステムの充実	○デュアル実習に加え、総合的な探究の時間や船高アクティブリーダー育成プロジェクトを中心に地域課題探究活動を充実させることができた。
	進路指導部	4	◇保護者と連携した指導や個別面談の実施	◇3回の進路希望調査の時期と合わせて面談指導を実施することに加え「進路の手引き『鵬翼』」の内容を一新して面談の際にも活用しやすくしたことで保護者の意識の高まりも感じられた。進路指導部と学年が連携して生徒と面談し進路の早期決定を促し、教員全員で面接指導を計画的に実施することで就職希望内定率は100%となった。
		4	○個に応じた進路希望の実現	○進学を希望している生徒には1年次から個別課外指導を継続して行い、大学受験に向けてきめ細かい指導を行った。今年度は国公立大学に2名合格している。公務員対策も計画的に実施し、1名の合格者を輩出した。
3	◇資格取得の奨励	◇あらゆる機会に資格取得を促し各種検定試験に積極的に挑戦した。数学検定2級を取得、準1級に挑戦する生徒もいた。		
信頼される学校づくり	教務部	4	○地域の関係機関・企業との連携	○5年ぶりに市内中学生を招待して、「夢を育む講演会」を開催できた。
	進路指導部	3	◇地域の関係機関・企業との連携	◇小野高校との統合を見据え、田村市内の企業に加え小野町内の企業も招待して生徒対象の企業説明会を行った。
	服務倫理委員会	4	○公務員としての誠実かつ公正な勤務	○不祥事防止チェックシートの回答を定例職員会議で共有し、回答が分かれた質問についてグループ協議の時間を設けて服務規律の順守を図った。

#### (4) 分析に基づく改善の方向

- 学習習慣を高い水準で定着させるために、学習アプリを活用しながら生徒の学習意欲の向上を図るとともに、家庭学習の継続的な取組を一層推進する。
- 「田村市と共に発展する船引高校」をスローガンに掲げるとともに、統合を見据え小野町との連携を強化し、学校での取組を地域の広報誌や学びのプラットフォーム「note」等に掲載することにより、地域からの支援を得られるようにし、生徒の活躍の場をさらに広げていく。
- 学校行事や特別活動、部活動をとおして生徒の心の成長に必要な体験の機会を確保し、生徒の心の成長とケアを意識した教育活動を進めていく必要がある。また、適応推進委員会をはじめとする教員間での情報共有とチーム支援により、いじめ防止対策ならびに個別支援を強化し、豊かな人間性・社会性の育成に努めていかなければならない。

### Ⅲ 広報の概要

#### (1) 目的や意図

生徒の活動内容を広く伝え、また、地域の方との関わりを増やすことで、地域や保護者に本校の教育活動へのさらなる理解と協力を促し「地域から信頼され、地域と共に発展する学校」の推進を図る。

#### (2) 実施計画及び実施状況

ア 学校Webサイトやnoteを随時更新するとともに、学校広報誌にnoteのQRコードを付け田村市役所入口に掲示したり、田村市の広報誌「たむら市政だより」へ掲載したりすることにより、地域や保護者に生徒の学校生活の様子や活躍の様子を周知する。

イ 総合的な探究の時間や進路講演会等の学校行事に地域の有識者を外部講師として活用する。

ウ アクティブリーダープロジェクトや地域課題探究活動の活動風景を上記ア同様の手段を用いて発信し、地域貢献に取り組む生徒の活躍を発信する。

#### (3) 実施してみたの反省点等

ア 学校Webサイト、Classiによる情報発信を迅速に行うことができた。今年度も各種通信・案内や事務連絡、風雪で電車運転見合わせによる臨時休業の連絡等で有効に活用した。

前年度に引き続き学校広報誌にnoteのQRコードを付け田村市役所入口に掲示し、市内中学校にも市教委の許可を経て配付したことで受験者数も一定数確保できた。また、田村市広報誌「船高だより」「議会だより」にも同様の内容を掲載することにより、業務の負担を増やすこと無く、地域の方に広く本校の教育活動を周知することができた。市の広報誌には統合校の校名を募集する案内も掲載し、予想以上の応募があり、反応も大きかった。

イ 地域の有識者からの専門的な講義、豊富な人生経験に基づく助言により、生徒の社会性の育成や進路意識を高める指導を行うことができた。

ウ 本校の特色である地域貢献活動が持続的に機能する体制整備ならびに統合に向けた小野町との連携には改善の余地があるが、生徒が地域の実情を知り、地域課題探究学習の取り組みに関する発信を行ったことが、国立研究開発法人国立環境研究所の目に留まり、先方のHPに本校サイトのリンクが貼られたことで、広報の有効性並びに重要性を再認識することとなった。

### Ⅳ 次年度へ向けて

今年度の学校経営・運営は、前年度の反省と小野高校との統合を念頭に、改善が必要なものに改善を加えたうえで計画的かつ組織的に実施し、教育の質的向上を目指したものであった。

次年度の学習については、学習アプリをClassiからスタディサプリに変更し、端末を活用した学習指導をより効果的に進めると同時に、観点別評価のあり方については引き続き研究を重ねていく。

生徒指導については、今年度改定した校則の一層の定着に生徒会を中心に取り組んでいく。また、SNSによるいじめの認知件数が増加したことを踏まえ、情報モラル教育や教職員のSNSへの理解も必要であり、早めに研修の機会を設け、生徒の多様性に対応した組織づくりを強化していきたい。

次年度も学校広報紙にnoteのQRコードを付け田村市役所入口に掲示する等を継続し、学校の取組や生徒の活動の様子をリアルタイムで広報する。noteへの掲載や学習アプリでの発信はスマートフォン等での受信が容易なことから、保護者に対して本校の教育活動等を知らせる有効な手段であり、その反応等を今後の取組に反映させていく。また、田村市版デュアルシステムをはじめ、ドロウンの取組、地域課題探究学習など田村市との連携・支援によって多種多様な体験が行えている。その体験の様子や成果を学校Webサイトやnoteの更新、地域の広報誌等によって情報発信していくことで地域の更なる理解を得て、地域と共に発展する学校を目指すことができると考える。

併せて働き方改革を推進し業務の精選を行い、教員が生徒や教材と向き合う時間をしっかり確保し、生徒一人ひとりが高い進路目標に向かって自己実現を図ることができるように努めていく。また、併設しているたむら支援学校高等部との連携を強化し、通級に向けた取組を一層充実させるとともに、学校行事等の交流により多様な価値観を尊重する心を育て、豊かな人間性と社会性を養っていきたい。